

1983年台湾採集行

谷角素彦・石田達也・加野 正・足立義弘

そもそも“台湾へ行こう”と言いだしたのは誰だったのか、はっきりとは覚えていないが、1982年も暮れようとしているころのことだった。ゴールデンウィークに沖縄へ行こうか、というのが始まりだった。それがどこでどう変わったのか、料金もそれほどちがわないし、どうせ行くなら台湾へ、ということで実に簡単に決まってしまったのである。

4月29日 大阪—台北 (三陽ホテル 泊)

大阪国際空港を19時30分の定時に飛び立ったノースウエスト001便は、小雨の中を高度を上げていった。初めての海外での採集。みんな、これから我々を待ちうけている台湾の生活や虫たちのことを考えているのか、何となく落ち着かない。順調なフライトで、台湾の桃園空港に着いたのは21時05分(台湾時間、日本時間で22時05分、以下は台湾時間)であった。入国手続きと小口の両替を済ませ、台北での宿、三陽ホテルに着いたのが23時前だった。シャワーを浴びた後、ビールを飲みながら翌日の予定を打ち合わせ、ベッドにもぐりこんだ。

4月30日 台北—埔里 (東峯大旅社 泊)

三陽ホテルを9時に出発した我々は、台湾銀行本店へ行き両替を済ました。そして、台湾での初めての食事である。台北駅の食堂に入り、各人適当に注文したが、安いし味も悪くない。しかもボリュームたっぷりて栄養満点という感じだ。これからの食事にも期待がもてそうだ。

食事を終えてバスターミナルへ向かう。台湾は鉄道よりバスの方が発達しているようで、我々が目指す埔里へは、台北から直通バスが1時間おきに出ている。11時発のクーラー付“中興号”に乗り、一路埔里へ。台中までは高速公路を快適に走る。台中でトイレ休憩をとり、埔里に着いたのはちょうど15時であった。

宿の予約はしていなかったが、日本の虫屋がよく利用する東峯大旅社へ投宿することにした。ツイン部屋の一泊が日本円で2400円。ベッドが2つ、白黒テレビと天井にとりつけられた扇風機が1台ずつ、それにバス・トイレがあるだけの古びた部屋だった。旅装をとくと、早速埔里の街の見物に出掛けた。東峯大旅社の

隣には有名な木生昆虫研究所がある。この研究所の奥には世界の昆虫の広い展示室があり、とくに台湾の昆虫の前に立つと、たちまち明日からの採集の話になってしまった。所長の余清金氏は、虫の世界では日本でもお馴染みの人で、谷角などはいろいろ話をしていて、木生昆虫研究所を出て、ブラブラと歩く。街は少々ほこりっぽく、古き良き時代の日本といった感じだ。また、やたらバイクが多い。それも90-125ccの小型バイクばかりで、2人乗りはもちろんのこと、両親に子供2人の4人乗りなどというアクロバットみたいなものも見た。もうひとつ目につくものに屋台がある。昼間は野菜や果実を売っているものが多いが、夜になると食事のできるものが増える（埔里に滞在中、我々のどん欲な食欲を満たしてくれたのが、この屋台であった。とにかく安くてうまい）。当然のことながら、街には漢字が氾濫している。わかりそうでわからなかったり、わからなそうでわかったりする。そうこうするうちにバスターミナルにたどりついた。ここで、片言の日本語ですり寄ってきた30代半ばの男があった。林（リン）さんというタクシーの運転手だ。実によく喋るサービス精神旺盛な人物だった。彼の熱意に負けて明日の南山溪までの往復便を頼むことにした。

5月1日 南山溪 （東峯大旅社 泊）

待ちに待った採集の日がやってきた。7時に林さんに迎えにきてもらい、途中、昼食用のパンとジュースを買い、南山溪へ。8時到着。帰りは16時に迎えにきてもらうことにする。

いよいよ行動開始。さすがに見るもの全てが新鮮である。水田のそばをタイワンモンシロチョウが飛んでいる。最初は何でも採った。南国の暑い日差しの中を先へ進む。写真を撮りながら歩いていると、20歳ぐらいの男女のカップルに出会った。2人は台中大学農学部で昆虫学を専攻しているとのこと。片言の英語で喋っていると、女性の方がどこからか蛹を持ってきた。ホソチョウであった。気をつけて見ると、付近の草の間に蛹が散見された。2人と別れて、さらに道を奥へ進む。谷角、足立、石田の3人は途中正規のルートから逸れたが、何とか溪流へ下りる道を見つけた。さすが加野は一足先にきており、かなりの成果を挙げている。沢に下りるとすぐに竹の橋があり、そのそばの河原に地元の採集者が作ったチョウの羽を使ったトラップがいくつかあった。メスジロキチョウやマダラシロチョウ、ホリシャミスジ、タッパンルリシジミ、ウラフチベニシジミなどが吸

水にきていたが、加野が採ってしまった後なのか、思ったほど多くはなかった。それでも、時折ルリモンアゲハやミカドアゲハが目の前を横切っていく。樹の茂ったところでは、キミスジやキンミスジ、ヒョウマダラなどが見られ、コノハチヨウもいた。みんな奮闘したので、初日にしてはまずまずの成果だった。

帰りに林さんが‘台湾地理中心’なる石碑のある公園へ案内してくれ、宿には5時ごろに着いた。

シャワーを浴び、採集品を簡単に整理して、食事に出掛けた。まず冷えたビールで乾杯して、一日の労をお互いにねぎらった。川魚やエビのフライ、ニンニクをきかした空心菜という野菜のいためもの、焼飯などをたのんで1人500円足らずで、食べることに限っては天国みたいなところだ。みんなでワイワイやりながら飲んで食って、明日も頑張ろうで暮れたのであった。

5月2日 南山溪、獅子頭 (東峯大旅社 泊)

朝、バイクの排気音で目覚めた。外へ出ると、林さんはもう到着していた。残念なことに空はどんより曇っており、まだ少し眠いこともあって気分はもうひとつさえない。やはり南山溪へ出掛けた。曇天のため、虫影は薄い。天気は昼過ぎまでもったが、昼食後しばらくすると雨が降りだした。しかたなく下山することにしたが、途中1人の台湾人男性と出会った。昆虫採集案内人、羅錦吉氏との劇的な出会いだった。近くの農作業小屋で雨宿りをした。小屋には4名の年配者がいた。みんな日本語が達者で、いろいろと話しこんだ。おじいさんたちは農業で生計をたてているが、こちらでも若い人たちはどんどん街に出ていってしまっていて、自分たち年寄が畑仕事をしているとのことだった。台湾という外国の地で、一度も日本にきたことのない人たちと、日本語で話し合っているという、何とも表現のしようのない感覚にとらわれた。

羅氏は、自分のことや虫のことを詳しく丁寧に話してくれた。我々が東峯大旅社に泊まっていると知ると“トリガイサンモトマッテイル”という、日本からの常連だそうでカミキリが専門とのこと。偶然とはいえせっかくプロの採集案内人に会ったのだから、明日からの案内をお願いしようということになった。

そろそろ帰る時間だった。下山すると林さんが少し早めにきていた。虫の方では大した成果はなかったが、羅氏と出会ったことで明日からの採集が実に楽しみとなった。

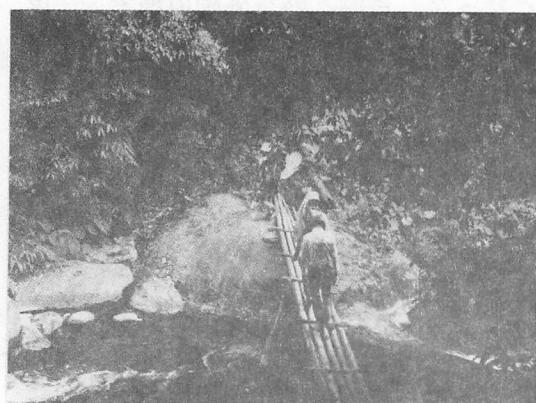
夜、雨も上がり部屋でごろごろしていると突然、羅氏がやってきた。明日の打ち合わせを兼ねて、獅子頭の家に見にこないかと誘いにきたのだった。我々は喜んで彼に従った。彼の家に着くと、倉庫のようなところへ連れていかれた。そこが標本室だった。チョウはもちろんのこと、クワガタ、カミキリ、コガネムシなど、憧れの虫が並んでいた。見るもの聞くことが我々の興味をそそり、ついよだれが出そうになった。その興奮もさめないうちに、近くの水銀灯で灯火採集をしようということになった。雨後で気温が低かったせいもあり、あまり虫が集まっていなかった。それでも、シロスジカミキリやタイワンクロツヤムシ、コガネムシ類などが採れた。



マダラシロチョウ（南山溪で）



メスジロキチョウ（南山溪で）



南山溪の竹の橋



採集を終えて、さあ乾杯！（埤里で）

5月3日 南山溪 (東峯大旅社 泊)

南山溪での採集はきょうで3日目になるが、これまでの2日間の採集ではもうひとつ成果があがっておらず、とりわけ甲虫を採りたいメンバーは欲求不満気味。でも、今朝はちょっとちがうのであった。みんな期待に胸がワクワク、というのは、前日出会った羅錦吉氏に、南山溪を案内してもらうことになっているからである。とくに甲虫のポイントに連れていってもらうのが楽しみである。朝、東峯大旅社へ羅氏の車が迎えにやってくる。我々は、宿の前にある屋台でこしらえてもらった弁当をリュックにつめこんで、臨戦態勢は万全。いざ出陣。おなじみになった道路を車は南山溪へと向かう。きょうは快晴。カシの花に集まるカミキリを主とした甲虫は10時ごろがピークということなので、下車すると足早に山道を登る。汗がドッとふき出す。吸水性のチョウの多い竹の橋を左手に見下ろしながら、溪流沿いを奥へ進む。ヤエヤマイチモンジが目の前を横切る。チョウはそこそこにして、目的の場所まで一気にかけあがる。尾根筋の1本のカシの根元を羅氏が指す。ここで昨日、羅氏自身ほとんどお目にかかったことのないツノコガネの1種を2頭採ったという。さらに進んだところに、目的のカシの大木があった。見上げると日差しがまぶしい。高さが5m以上もある樹上を飛び交う虫影に胸が高鳴る。ゼフ用のつなぎ竿を力一杯に振った。ネットのなかで多数のカミキリがうごめいている。これこそ夢にみた台湾での採集だ。ヒメシロシジミやタナカカラスシジミも、カシの花にやってきたものをネットインした。タイワンツノコガネも、長い前肢を目立たせながら飛び去っていく。羅氏はこの日何故かネットを持ってきていなかった。本領を発揮してもらう場合、誰か一人が犠牲にならねばならない。こんなときは、心優しい谷角がその役目を担うことが多い。それにしても羅氏の腕前はどうか。さすがにプロの採集人、我々がひと振りでネットに収める虫の数とはまったくちがう。近くの草原にはタイワンヤマキチョウが飛んでいるが、なかなか捕えることができない。1時間も経過しただろうか、石田がチョウをとりたので溪流に下りるといいだし、足立、加野も結局は立ち去ってしまった。カシの大木のポイントには羅氏と谷角が残り、1本のネットを2人で共用する羽目になる。“みんな自分のことしか考えん奴らや”と谷角はブツブツ。谷角はネットだけではなしに、ひとつの弁当を羅氏と分かち合ったのでした。午後は竹の橋近くで、各人チョウを採集したり撮影したりで勝手気ままに楽しん

だ。ああ、台湾はいいな。時間が止まっているような錯覚にとらわれる。

夜は、同じ東峯大旅社に滞在中の鳥飼兵治氏と埔里の食堂（上等の屋台というべきか）で、台湾の話や虫談義に花を咲かせながら食事。鳥飼氏は飛驒高山で学校の先生をされた後、虫の採集と彫塑で暮らしているという、我々からみるとうらやましい生活をしている人である。台湾では年間1～2ヶ月を過ごすとのことで、アルコールが入ると“酒なくして何の人生か”を連発しておられた。八方美人の石田と酒呑みの足立が、えらく鳥飼氏と意気投合していた。加野は酔いがまわってしんどいといい、谷角は日本での阪神タイガースの戦績に思いをめぐらせていた。

5月4日 松崗下 （東峯大旅社 泊）

南山溪には3日間通ったので、そろそろ別の欲求が頭をもたげてきたようだ。このあたりで少し環境のちがうところでネットを振ってみようかということで、この日は羅氏の弟さんに案内してもらって松崗下へ出掛けることにした。松崗下は台湾中部の山岳地帯にあり、標高2000m前後である。ここでの最大の標的はホッポアゲハということになる。1日ねばれば1人10頭は採れるという。羅弟さんの運転する軽トラックは砂ぼこりを上げながら、荷台に加野、足立、谷角の3人を積んで（石田は助手席に乗っている）、曲がりくねった上り坂をあえぎあえぎ走っていく。揺れる荷台から、足立は根性で移りゆく風景にカメラを向けシャッターを切っている。途中、霧社を過ぎたあたりの小学校の前で車が停まった。何かと思って見ていると、エンジンがオーバーヒートするので水で冷却し、ここはその中継所になっているのだという。谷角は乗物酔いでダウンしてしまい目はうつろ。助手席の石田と変わってもらう。元気をとり戻した軽トラックは再びスタート。間もなく松崗下に到着。あたりは高原状の牧草地で稜線沿いに樹林が見える。まるで但馬の上山高原のような感じである。この稜線沿いがホッポアゲハのポイントらしく、樹林内はシーズンにはゼフィルスが多いのでも有名である。ここで二手に別れ、羅弟・加野・石田班と谷角・足立班（今回の採集行を通じてずっとそうであるが、宿の部屋割にしても何故かいつもこの分け方である。おかげで谷角は苦労が多かった）は、それぞれ採集を行う。草原をキアシシヤマクワガタが飛ぶ。この虫は台湾中部山岳地帯で短期間しか出現しないとあるが、いい時期に出くわしたのかけっこう数が多い。タカサゴベニカミキリも吹き上げられ

てくる。うわさにたがわずホッポアゲハも多い。オオベニモンアゲハやタイワンタイマイ、アサクラアゲハもやってくる。樹林内に入ると、シロキマダラヒカゲやアリサンキマダラヒカゲが、草原のアザミにはモンキチョウやツマグロヒョウモンも見られ、やはり南山溪とは趣がちがう。加野は、台湾産カミキリのうち3大美種のひとつに数えられるハデツヤカミキリを1ペア採集して満足気。足立は大木の枝先に止まっているフタオチョウを見つけ“オーイ、谷角、あそこにフトオアゲハがいるぞ”と真剣に叫び、そのせいかどうか、谷角は草原で石につまずいて手に切り傷を負ったのであった。

帰路、霧社の手前まできたとき車の前方の道を歩いていた女性2人が何か叫んでいるので、何をいっているのかと羅弟さんに尋ねると“高砂族の娘が、あなた（もちろん谷角のことです）の顔キレイといっている”とのこと。そうか納得。後で他の連中から“谷角、高砂族と結婚して台湾に残れ”といわれ、それもまんだらではないと思ったが、羅弟さんのいった“高砂族の女、大酒呑み、タバコも吸うし上等ない”という言葉を思い出し、その考えを否定したのであった。南山溪近くの牧草地で車を停めてもらい、大好きなフン虫を搜した。マグソコガネの類が多く、タイワンダイコクコガネは加野が採集した。

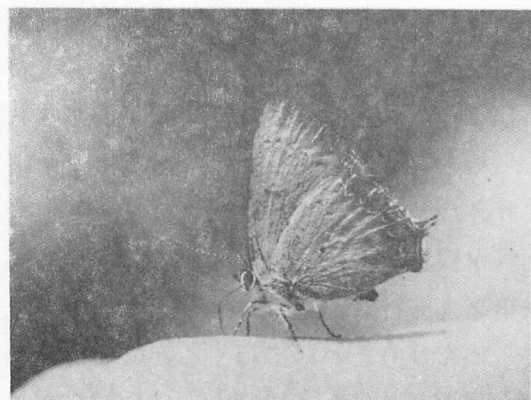
5月5日 裏南山溪、南山溪 （東峯大旅社 泊）

今日は台湾最後の採集日ということで、のんびりとバスで行くことにした。裏南山溪へ行ってみようということで、南山溪のバス停からいつもとは反対方向へ歩き出した（実をいうと、少々疲れ気味で楽な方を選んだのだが）。しかし、開けすぎた感じであまりおもしろくない。日和った加野は、すぐに南山溪の方向に引き返した。村のはずれでメスアカムラサキを目撃したが、採りそこなってしまった。後で聞いたことだが、石田が裏南山溪で、谷角が南山溪の人家付近でアカネシロチョウを採集している。何気なく通り過ぎてしまうこのような場所も注意する必要があるようだ。

ともかく、通いなれた南山溪の道をたどった。チョウの顔ぶれはいつもと変わりはない。ただこの日は、どういう訳かルリマダラの類がいつもより目についた。とくに竹の橋へ下りる分岐点あたりではかなり多かった。加野は、3日に羅氏に案内してもらったカシの木のところへ向かった。花の時期は終わりかけ、虫はあまり集まっていなかった。それでもコガネムシの類など少しは採集できた。カシ

の花をゆすっていると何かがポトッと落ちた。何だろうと思いつつもしばらく採集をつづけ、ふとリュックのところを見ると、クワガタ（タイワンネブトクワガタ）がうごめいていた。これはもうけとばかりに管ビンに収めたのはいうまでもない。

また、この日は竹の橋を下りた吸水場で地元のプロの採集人に出会った。デカイ網で吸水にきたチョウをすくいあげていた。みんな、これが最後ということで思い思いにチョウと戯れていた。写真などを撮りつつ帰路についた。足立と加野がバス停についたが、谷角と石田がなかなか下りてこない。後で聞いたところでは、2人ともつなぎ竿を置き忘れ、取りに引き返していたとか。ドジな2人であ



汗を吸うウラフチベニシジミ（南山溪で）



南山溪の山路（右：羅錦吉氏）



南山溪のバス停
（左より石田，足立，加野）



松岡下の牧草地
（左より谷角，石田，羅弟，加野）

る。おかげでバスを1台乗りすごしてしまい、結局1時間ぐらい待ちぼうけをくった。この間、小学生や女の子たちの写真を撮って時間をつぶした。カメラを向けると、小学生は直立不動の姿勢でポーズをとり、女の子たちは恥ずかしがるのである。

埔里まで帰り、鳥飼氏と共に食事に出掛けた。埔里最後の晚餐？ということで鳥飼氏にお気に入りの屋台へ案内してもらった。ここでの食事は、台湾の9日間で最良のものだった。味よし、安値で雰囲気もいい。これは4人の一致した意見である（珍しく意見が合った）。宿に戻ると、明日ここを発つということで、早めに寝ることにした。ところが、羅夫婦と弟さんの3人が、ハチカミキリ（ネキダリス）をみやげにと持って訪ねてきてくれたのである。今日の帰りに寄ることになっていたのだが、疲れてそのまますっばかしていたのである。羅一家には何かと世話になり、一同感謝の気持ちでいっぱいである。

5月6日 埔里—台北 （三陽ホテル 泊）

早くも埔里での5日間の採集を終わり、今日は台北へ移動である。埔里のバス停で少し時間があつたので、街の様子や人を写真に撮った。バスガイドをさかんにねらうが、なかなかうまくいかない。概して台湾女性はスタイルがよい。バスガイドは若くて制服姿が一段とよく、とくにその後ろ姿はバツグンである。

行きとは逆コースで台北までバスで移動、初日と同じ三陽ホテルに落ち着いた。近くのデパートでみやげを買い、ホテルの4階で食事をした。ここでの食事は、我々にはかなり高級なものであった。ウエイトレスやウェイターが我等4人のまわりをたむろしていた。加野は、ここで日本人であることを疑われてしまった。また、ウエイトレスたちはさかんに我々のルームナンバーを尋ねる。不用意にもナンバーをもらしてしまった足立は同室の谷角とともに、寝込みを女性2人に襲われたそうである。どう対応したかは定かではない。とにかく台北のホテルでは必ずフロアー係の女性が“アンマイラナイカ”“オンナノコイラナイカ”と聞きにくる。他の3人はいざ知らず、この純情な加野にこんなことを聞くとはい見目のない奴じゃ。

5月7日 台北—大阪

いよいよ帰国する日がきた。何と日のたつのは早いことか。飛行場で手続きをすませ、税関を通り、免税店でみやげを買い（台湾で使ったお金の半分はみやげ

代であった), 待合室で搭乗を待った。しばらくすると, ノースウエストの係員が汗だくで走ってきた。この係員, 我々の前で何やら一生懸命に喋っている。とにかく, 谷角が係員についていくことになった。残った3人は, 竿でも折れたのかなあといひながら待っていたのであるが, しばらくして帰ってきた谷角より, 荷物のチェックを忘れていたことを聞かされた。危うく荷物を台湾へ残していくところであった。最後の最大のチョンボであった。何とか大阪まで無事に帰り着き, 4人それぞれ家路についた。

我々4人の初の海外採集旅行も無事終わったわけであるが, 台北はともかく, 埔里の人々の親切, 安くてうまい食事, 気ままな採集の日々は, 強い印象として深く心に残った。これは, 天候不順とかで少なかった虫の成果をおぎなっておりあるものであった。また行くぞ!

次に, チョウとカミキリムシの採集目録を掲げる。カミキリの同定では, 林匡夫博士にお世話になった。深謝したい。

チョウ採集目録

	Papilionidae	アゲハチョウ科			
<i>Byasa polyeuctes</i>	オオベニモンアゲハ	5/4	M	11exs.	
<i>Graphium sarpedon</i>	アオスジアゲハ	5/1,2,3	N	3exs.	
<i>G. cloanthus</i>	タイワンタイマイ	5/3,5	N	4exs.	
		5/4	M	4exs.	
<i>G. doson</i>	ミカドアゲハ	5/1,3,5	N	9exs.	
<i>Chilasa agestor</i>	カバシタアゲハ	5/4	M	1ex.	
		5/5	N	1ex.	
<i>Iphiclides eurous</i>	アサクラアゲハ	5/4	M	1ex.	
<i>Papilio machaon</i>	キアゲハ	5/4	M	1ex.	
<i>P. helenus</i>	モンキアゲハ	5/3	N	1ex.	
<i>P. thaiwanus</i>	ワタナベアゲハ	5/1,3	N	4exs.	
<i>P. protenor</i>	クロアゲハ	5/1,2,5	N	4exs.	
<i>P. memnon</i>	ナガサキアゲハ	5/3	N	1ex.	
<i>P. bianor</i>	カラスアゲハ	5/1,3	N	2exs.	
<i>P. hoppo</i>	ホッポアゲハ	5/3	N	3exs.	
		5/4	M	27exs.	
<i>P. paris</i>	ルリモンアゲハ	5/1,3,5	N	5exs.	

Pieridae シロチョウ科				
Eurema laeta	ツマゲロキチョウ	5/5	N	1ex.
E. hecabe	キチョウ	5/2,3,5	N	4exs.
E. esakii	エサキキチョウ	5/1,2,5	N	4exs.
Gonepteryx amintha	タイワンヤマキチョウ	5/3	N	1ex.
		5/4	M	1ex.
G. mahaguru	タイワンコヤマキチョウ	5/5	N	1ex.
(スジボソヤマキチョウ別亜種)				
Colias erate	モンキチョウ	5/4	M	4exs.
Ixias pyrene	メスジロキチョウ	5/1,2,3,5	N	47exs.
Prioneris thestylis	マダラシロチョウ	5/1,3	N	16exs.
Hebomoia glaucippe	ツマベニチョウ	5/1,5	N	4exs.
Cepora nadina	ウスムラサキシロチョウ	5/1,2,3	N	15exs.
Pieris canidia	タイワンモンシロチョウ	5/1,2,3,5	N	9exs.
		5/4	M	1ex.
Delias aglaia	アカネシロチョウ	5/5	N	1ex.
		5/5	U	1ex.
Danaidae マダラチョウ科				
Parantica aglea	ヒメコモンアサギマダラ	5/1,3,5	N	5exs.
Radena similis	リュウキュウアサギマダラ	5/1,3	N	2exs.
Tirumala hamata	コモンアサギマダラ	5/1,5	N	2exs.
Parantica melaneus	タイワンアサギマダラ	5/1,2,3,5	N	12exs.
		5/4	M	1ex.
		5/5	U	2exs.
P. sita	アサギマダラ	5/3	N	1ex.
Euploea mulciber	ツマムラサキマダラ	5/1,3,5	N	10exs.
E. tulliolus	ホリシャルリマダラ	5/1,5	N	9exs.
		5/4	M	2exs.
E. sylvestor	ルリマダラ	5/5	U	1ex.
E. leucostictos	マルバネルリマダラ	5/2,5	N	5exs.
Satyridae ジャノメチョウ科				
Ypthima baldus	コウラナミジャノメ	5/1,2	N	4exs.
Y. conjuncta	オオウラナミジャノメ	5/5	N	1ex.
Y. multistriata	タイワンウラナミジャノメ	5/1,2	N	6exs.
		5/4	M	1ex.
Y. esakii	エサキウラナミジャノメ	5/1,2,5	N	7exs.
Lethe dura	オジクロヒカゲ	5/4	M	2exs.
L. mataja	オオシロオビクロヒカゲ	5/1,5	N	2exs.
L. verma	シロオビクロヒカゲ	5/2,3,5	N	7exs.
Neope pulaha	アリサンキマダラヒカゲ	5/4	M	1ex.
N. armandii	シロキマダラヒカゲ	5/4	M	2exs.
Mycalesis sangaica	コヒトツジャノメ	5/1,2,5	N	3exs.
M. francisca	コジャノメ	5/1,2,3,5	N	9exs.

Melanitis phedima	クロコノマチヨウ	5/2	N	2exs.
Palaeonympha opalina	ギンジャノメ	5/3	N	2exs.
		5/4	M	2exs.
Elymnias hypermnestra	ルリモンジャノメ	5/1,3,5	N	4exs.

Nymphalidae タテハチョウ科

Timelaea maculata	ヒヨウマダラ	5/1,2,3,5	N	10exs.
Symbrenthia hypselis	ヒメキミスジ	5/2,3	N	4exs.
S. hippoclus	キミスジ	5/1,2,3,5	N	6exs.
Nymphalis xanthomelas	ヒオドシチョウ	5/2	N	1ex.
		5/4	M	1ex.
Kaniska canace	ルリタテハ	5/2,3,5	N	4exs.
Argyreus hyperbius	ツマグロヒョウモン	5/3	N	1ex.
		5/4	M	5exs.
Precis iphita	クロタテハモドキ	5/1,3,5	N	4exs.
Kallima inachus	コノハチョウ	5/1	N	1ex.
Neptis aceris	コムスジ	5/1,3	N	5exs.
N. hylas	リュウキュウミスジ	5/1,5	N	4exs.
N. yerburyi	スズキミスジ	5/2,3	N	8exs.
N. soma	タイワンミスジ	5/3	N	1ex.
N. ananta	ホリシャミスジ	5/1,2,3	N	24exs.
		5/4	M	2exs.
N. philyroides	チョウセンミスジ	5/1	N	1ex.
Pantoporia hordonia	キンミスジ	5/1,3,5	N	6exs.
Neptis pryri	ホシミスジ	5/1	N	6exs.
		5/4	M	1ex.
Tacoraëa asura	ナカグロミスジ	5/3	N	1ex.
T. selenophora	ヤエヤマイチモンジ	5/1,3,5	N	8exs.
T. cama	タイワンイチモンジ	5/1,3	N	3exs.
T. jina	ニトベミスジ	5/3	N	1ex.
Sumalia dudu	ムラサキイチモンジ	5/4	M	1ex.
Hestina assimilis	アカボシゴマダラ	5/1	N	2exs.
		5/4	M	1ex.
Sephisa chandra	キゴマダラ	5/1	N	1ex.
Calinaga buddha	クビワチョウ	5/1,3	N	4exs.
		5/4	M	2exs.
Acraea issoria	ホソチョウ	5/1,3,5	N	17exs.

Libytheidae テングチョウ科

Libythea celtis	テングチョウ	5/1,5	N	3exs.
-----------------	--------	-------	---	-------

Riodinidae シジミタテハ科

Abisara burnii	アリサンシジミタテハ	5/2	N	1ex.
----------------	------------	-----	---	------

Lycaenidae シジミチョウ科					
Narathura japonica	ムラサキシジミ	5/1,3	N	2exs.	
Japonica lutea	アカシジミ	5/3	N	1ex.	
Leucantigius atayalicus	ヒメシロシジミ	5/1,3	N	5exs.	
Deudorix kuyaniana	クヤニヤシジミ	5/1	N	1ex.	
Strymonidia austrina	ウラジロカラスシジミ	5/3	N	1ex.	
S. tanakai	タナカカラスシジミ	5/3	N	2exs.	
Rapala caerulea	ウスムラサキシジミ	5/2	N	1ex.	
Heliophorus epicles	ウラフチベニシジミ	5/1,2,3,5	N	22exs.	
		5/4	M	4exs.	
Lampides boeticus	ウラナミシジミ	5/1,2,3	N	4exs.	
Jamides alecto	シロウラナミシジミ	5/1	N	1ex.	
Zizeeria maha	ヤマトシジミ	5/2,5	N	5exs.	
Everes lacturnus	タイワンツバメシジミ	5/1,3	N	4exs.	
Celastrina dilecta	タッパンルリシジミ	5/1,2,3	N	14exs.	
C. limbata	ホリシャルリシジミ	5/1,2,3	N	4exs.	
C. albocaerulea	サツマシジミ	5/2	N	1ex.	
		5/4	M	1ex.	
Una rantaizana	マエルリシジミ	5/1,2,3	N	12exs.	
		5/4	M	1ex.	
Hesperiidae セセリチョウ科					
Hasora taminatus	タイワンビロウドセセリ	5/1	N	1ex.	
Bibasis jaina	トビイロセセリ	5/2	N	1ex.	
Badamia exclamationis	タイワンアオバセセリ	5/1,5	N	2exs.	
Abraximorpha davidii	ユウマダラセセリ	5/1	N	1ex.	
		5/5	U	2exs.	
Seseria formosana	オオクロボシセセリ	5/1,3	N	5exs.	
Notocrypta curvifascia	クロセセリ	5/2	N	1ex.	
Telicota ohara	タケアカセセリ	5/5	N	1ex.	
Ampittia virgata	ホソバキボシセセリ	5/1,3	N	6exs.	
Isoteinon lamprospilus	ホソバセセリ	5/3	N	1ex.	
Polytremis eltola	タッパンチャバネセセリ	5/3	N	1ex.	
Borbo bevani	コモンチャバネセセリ	5/4	M	2exs.	

ただし、Nは南山溪、Uは裏南山溪、Mは松岡下を示す。

カミキリムシ採集目録

Cerambycidae カミキリムシ科					
Koichius tricolor (Gressitt)		5/3	N	足立、谷角	
Pidonia submetallica Hayashi		5/4	M	足立	

Anastrangalia dissimilis niitakana (Kano)	5/3	N	足立
Anoploderomorpha formosana (Matsushita)	5/3	N	足立, 加野
Leptura auratopilosa (Matsushita)	5/3	N	谷角
Mimostrangalia kurosawai (Hayashi)	5/3	N	足立
Strangaliella lateristriata (Tamanuki et Mitono)	5/3	N	足立
Corennys cinnabarina Gressitt	5/3	N	加野, 谷角
Parastrangalis denticulata (Tamanuki)	5/3	N	加野, 谷角
Metastrangalis ochraceouentra (Gressitt)	5/3	N	足立
Hiostrangalia vittatipennis (Pic)	5/3	N	谷角
Margites fulvidus (Pascoe)	5/4	S	加野
Aeolesthes (Pseudoeolesthes) chrysothrix. Bat. ssp. taiwanensis Hayashi	5/4	M	足立
Aeolesthes (Hemodius) oenochrous (Fairmaire)	5/1	N	足立
Thranus multinotatus rignatus Schwarzer	5/1	N	足立
Merionseda uraiensis Kano	5/3	N	谷角
Pyresthes curticornis Pic	5/3	N	足立, 加野, 谷角
Chloridolum (Leontium) parathetselonoatam Hayashi	5/4	M	加野
Chloridolum (Leontium) lameerei Pic	5/3	N	谷角
Rhaphuma testaceipes Pic	5/3	N	足立, 加野
Chlorophorus sp.	5/4	M	足立
Chlorophorus kanekoi Matsushita	5/3	N	加野
Cleomenes auricollis Kano	5/4	M	足立
Grammographus flavicollis (Matsushita)	5/3	N	加野
Grammographus sp.	5/3	N	谷角
Demonax unidenticornis Hayashi	5/4	M	足立
Demonax izumii Mitono	5/3	N	足立
Prothema ochraceosigrata Pic	5/3	N	足立, 谷角
Bunothorax takasagoensis (Kano)	5/4	M	足立, 谷角
Aethalodes verrucosus formosanus Uriesche	5/1	N	加野
Cacia (Lpocregyes) arisana (Kano)	5/4	N	加野
Calloptophara albopicta (Matsushita)	5/4	N	加野
Dicelosternus corallinus Gahan	5/4	M	足立
Batocera lineolata Chevrolat	5/2	S	足立
Glenea sauteri Schwarzer	5/3	N	足立, 谷角
Glenea fainanensis Pic	5/3	N	足立
Oberea griseopennis Schwarzer	5/3	N	谷角
Bacchisa fortunei (Pascoe)	5/3	N	谷角

ただし, Nは南山溪, Mは松崗下, Sは獅子頭を示す。